

2019年10月18日  
住友生命保険相互会社  
一般財団法人住友生命福祉文化財団

## クラシック音楽専用ホール「いずみホール」改称について

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、一般財団法人住友生命福祉文化財団（理事長 野呂 幸雄、以下「福祉文化財団」）が管理・運営を行っている住友生命所有のクラシック音楽専用ホール「いずみホール」を、2020年4月1日に「住友生命いずみホール」へ改称します。

「いずみホール」は、住友生命の創立60周年記念事業の一環として、音楽による社会貢献を目的に計画・建設され、1990年4月にオープンしました。地域の皆さまに支えられ、2019年9月末で延べ380万人を超えるご来場をいただいています。

「いずみホール」を運営する福祉文化財団は、1960年10月に住友生命の寄付により財団法人住友生命社会福祉事業団として設立、2013年4月1日から一般財団法人住友生命福祉文化財団に移行、社会の福祉および文化の振興に貢献すべく事業を展開しています。



撮影 樋川 智昭

2020年は「いずみホール」設立30周年、そして福祉文化財団設立60周年を迎える年となります。この記念すべき年にホールの名称を「住友生命いずみホール」へ改称し、新しい歴史を作るきっかけとして、更に多くの皆さまに親しまれるよう取り組んでいきます。

住友生命は、福祉文化財団を通じた音楽文化振興事業をはじめ、今後とも様々な分野での社会貢献活動を積極的に推進していきます。

## ■住友生命・福祉文化財団の社会貢献活動について

### 1. 住友生命の取組み

住友生命は、CSR経営方針において「社会の一員としての役割と責任を認識し、健康で心豊かな社会づくり」を掲げており、その取組みの一つとして音楽による心とからだの健康の観点から、芸術・文化の支援を行っています。「いずみホール」での事業の他、病院等での「こころふれあいコンサート」や「全国縦断チャリティコンサート」も実施しています。

今後は、「住友生命いずみホール」への改称をきっかけに、更なる住友生命ブランド向上を目指し、これからも音楽分野をはじめ様々な分野における社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

### 2. 福祉文化財団の取組み

福祉文化財団は、援護を要する人々を含む国民すべてが健康で文化的な生活を営むことができるよう、生活習慣病予防を中心とする医療面での貢献、社会における支え合いを促す福祉面での貢献、クラシック音楽の普及を通じた文化面での貢献を三つの柱として事業展開を行い、より良い社会の実現に貢献することを目的としています。

- ・ 予防医学振興事業：住友生命総合健診システム（人間ドック）、など
- ・ 福祉事業：スミセイ ウエルネス セミナー、など
- ・ 音楽文化振興事業：いずみホール